



第3章 本プロジェクトの概要

1 推進する上での視点

水源地における森林保全を進めていく上では、都民からの理解と協力はもとより、多様な主体との連携が不可欠ですが、水源林の適切な管理に関する都民の認知度は、いまだ5割程度にとどまっています。都民や多様な主体への理解を促進するためには、水源林の役割や水源地保全の重要性を分かりやすく説明していく必要があります。

このことから、これまで行ってきた「みずふる」※の運営や「水源林ツアー」の開催などの取組を進化させることに加え、水源地の森林や水源林に直接触れていただく機会を増やし、みんなで森づくりを行っていくといった意識を醸成し、水源地保全の機運を高めていきます。

なお、各取組を推進するに当たっては、「水道水源林管理計画」に掲げた施策との連携や、都や局をはじめとした、各種関連計画との整合を図っていきます。



水道水源林ポータルサイト「みずふる」



水源林ツアーの様子



動画による情報発信

※水道水源林ポータルサイト「みずふる」

多くの方々に「東京水のふるさと」である水源林の魅力を分かりやすく伝えるため「水道水源林ポータルサイト みずふる」を令和4年3月に開設しました。サイト内には水源林の散策動画などがあり、水源林に関する様々な情報を分かりやすく発信しています。

2 取組の柱と考え方

水源地の森林をみんなで守っていくといった機運を醸成していくためには、まずは水道局が管理する水源林に興味を持ってもらう必要があり、その入口となる「知る」機会を創出していくことが重要です。

また、水源地保全に対する理解を深めてもらうためには、現地を訪れ、水源地の魅力に直接「触れる」ことで、写真や資料からでは得られない体験をしてもらい、その役割や大切さを実感してもらうことが効果的です。

さらに、多様な主体との森づくりを進めていくためには、水源地保全の機運を高め、みんなで「協働」して森を育てていくといった一体感を醸成していくことが必要です。

このことから、本計画では、「知る」「触れる」「協働」を取組の柱としていきます。

知 **る**

幅広い年代に向けて水源林の認知度向上を図り、水源地保全の重要性を知ってもらう

触れる

水源林の現地に訪れ、水源地の魅力に直接触れてもらう

協 **働**

企業、都民、関係自治体等と協働して、水源の森づくりを行い、理解の促進を図る



幅広い世代の人々に水道水源林を
知ってもらおう・来てもらおう

3 取組内容一覧

みんなでつくる水源の森プロジェクトの体系

取組の柱	項目	主な取組内容	頁
知る	水道水源林ポータルサイト「みずふる」の拡充	・チャットボットの導入など	P.21
	小学生用学習支援教材等のリニューアル	・学習支援教材等のリニューアル	P.22
	多摩川水源サポーターの充実	・メールマガジンの配信	P.23
触れる	水源地ふれあいのみち小河内ゾーンにおける新エリアの整備	・展望施設等の新設 ・ふれあい館との連携	P.26
	水源林ツアーの実施	・現地散策ツアーの実施	P.27
	学生による森林保全活動の促進	・森林隊でのキャンパスDAYの実施	P.28
協働	企業と連携した森づくりの充実	・企業の森の拡充	P.31
		・企業パートナー制度の新設	P.32
	東京水道 水源林寄附金の充実	・法人向け寄附メニューの新設	P.33
	多摩川水源森林隊による新たな活動の導入	・親子体験活動など新たな活動の展開	P.34
	地元自治体等関係機関との連携	・地元自治体と連携した水源地のPR	P.35